

アドバイザー派遣事業実施レポート

伯耆町教育振興会保健体育部会

<実施期日> 平成28年6月24日 <場 所> 伯耆町立溝口中学校

<アドバイザー> 中京大学 杉江修治 教授

	杉江先生の指導助言	自分の授業へのすりあわせ
生徒主体	生徒がその時間の見通しを持つために、本時の流れや課題をしっかりと説明する必要がある。	生徒に本時の流れや課題を理解させ、1時間の見通しをもたせているか。
生徒主体	活動の目的をきちんと知らせておくと、生徒は活動後に自分で自己評価ができる。	授業の中で生徒にさせている活動ひとつひとつに目的があるか。
生徒主体・全員参加	実験などの作業を教師が全て説明するのも悪くはないが、作業マニュアルを渡し、「この通りにやりなさい。全体の妥当性のために、それぞれのグループがしっかりと数値を読み取る責任がある。」とやることもできる。	自ら必要以上に指示を出してしまい、生徒の考える機会や動く機会を減らしてはいないか。
生徒主体・全員参加	発表や活動をする側の生徒、見る・聞く側の生徒の両方にその課題や目的が必要。それは「学級の協同」にもつながる。	見る・聞く側の生徒にも課題を持たせているか。「なるほどなどと思ったものはメモしなさい。」など。
生徒主体	「感想を書く」という活動をさせる場合は、どう書けばよりよい感想になるのがイメージできる基準のようなものがあるとより具体的な指示となる。	感想を書かせる時には、生徒が何を書けばいいかが自分でわかるような視点を与えているか。
生徒主体	「感想を書く」という活動をさせる場合は、「〇〇を聞きましょう(読みましょう、観察しましょう)」→「感想を書くためのメモを取りましょう」→「メモをもとに感想を書きましょう。」という流れを指示すると、よりきちんとした感想を書くのではないか。	より具体的でよい結果を得るために、活動や作業に必要な手順を与えているか。
全員参加	リーダーが自然発生的に決まるのは悪くないが、いつも同じ子がリーダーに固定化するよりは、「前の時間リーダーだった子は今日はアドバイザー。違う子が今日は班長やキャプテンに。」などとやると、全員が役割を持つ機会を作れる。→こういうことを恒常的に行うことで、生徒は授業の中で横につながり、協同的な学びの関係を身につける。	リーダーや班長が固定化し、それがあたりまえになっていないか。 いろんな子に役割や動くチャンスを与えることを仕組んでいるか。

	杉江先生の指導助言	自分の授業へのすりあわせ
興味・感心	理科などの実験授業の目的は、「・・・を工夫する」で終わる以外に例えば、「工夫をメモさせる」「仮説や予想を立てさせる」などの過程もあってよい。→科学的な思考センスや感覚を養うのも理科の魅力 どの教科でも、専門的なことに興味を持った子は、そこから他の用語を覚えようとしたり、より深く学びたいという気持ちを持つようになってたりする。	自分の担当教科の持つ魅力、本来の楽しさを生徒に伝えたり感じさせたりする機会を与えているか。 教科の専門性、値打ち。
その他	「テスト」とは、「先生は学力というものをこう考えていますよ。」というメッセージである。用語テストばかりやると、「用語を覚えること＝学力」と先生は考えている、「用語を覚えることがゴールだ」と生徒がとらえる可能性がある。「考えることや自分で答えを作りだすことも学力」というメッセージを込めるテストも大事。	どういう力をつけたいか＝テストとなっているか。 それを生徒に事前に示しているか。
	どの授業も生徒の参加率がとても良好。	いつまでもそうとは限らない・・・。
	生徒に期待をし、より高い目標を子供たちに求める。「この活動楽しかった。」で終わらせない。  生徒はよく協力する。先生が授業の最後に「今日は課題に向かってみんなでしっかりと協力できた。とてもいいことだ。」という評価を加え続けることで、生徒たちは「このような人間関係がよりよいことなのだ」とわかり認識するようになる。 →どの教科でもやる＋授業以外でもやる。	活動をさせっぱなしになっていないか。その活動はなににつながるのか、できるとどう力が伸びるのか・・・。  折りに触れ、よい意味でマインドコントロールを。よい状態や求める姿、ゴールをイメージさせることをしているか。

### <まとめ>

- 子供たちはよく動くが・・・、個の力を伸ばし、それを集団の力にしていくことが大事。
- 子供たちに期待をし、高い目標設定を。そのためにはしっかりと活動の意図やねらいを伝え、ゴールを評価すること。
- 生徒が落ち着いている時期に、どんどん自分の挑戦や実践をすること。